



# 保線部門におけるメンテナンス体制の最適化について「提案」を受ける!!

時間軸を大切にすること。なによりも安全について、JR 本体、パートナー会社、協力会社が連携を取って死亡事故傷害事故防止に努めることが大切である。

ジェイアール・イーストユニオンは3月5日(本日)、表題について会社側より提案を受けた。(提案内容:別紙)

## 【提案の要点】

将来にわたってメンテナンス体制を維持継続するためには、より一層効率的な仕組みによる生産性の高い業務執行体制をパートナー会社と一体となって構築していくことが必要である。そのために、最新技術を用いた新たなメンテナンス手法の導入及び閑散線区における保守業務と組織体制の見直しを実施するとともに、現場感覚と技術的な判断にもとづいた適切な線路メンテナンスの実践を支援するメンテナンス体制の最適化を図っていく。

## 1 実施事項

- (1) 線路設備モニタリングによる新たなメンテナンス手法の導入  
検査体系の見直し 引継検査の業務見直し 保線技術センター業務の効率化
- (2) 閑散線区の保守業務の見直し (対象線区) 閑散線区:年間通過トン数5百万トン未滿で輸送密度が4千人/日規模以下の線区  
保守業務の移管拡大 認定制度の導入 組織等の見直し
- (3) 保線部門の技術支援体制の再整理

## 2 実施日:平成30年7月1日

**組合** 細部について確認した内容は組合員に伝えるが、大切なことは、地本・支社間でしっかり協議をおこない、安全を脅かすことのないように相互の協力が大切だ。事故防止に対する垣根を取り除きJRグループ全体の協力体制を徹底してほしい。

**会社** 安全第一は会社としても一致した認識だ。事故防止は、JR 本体、パートナー会社、協力会社が連携して協力していく。事故防止に対する垣根は取り除いていく。将来に向けて人手の掛かる作業は減らしていく考えである。

技術革新、働き方改革は、次の30年に向けた「変化点」である。

TICKET TO TOMORROW(未来のキップを、すべてのひとに。)